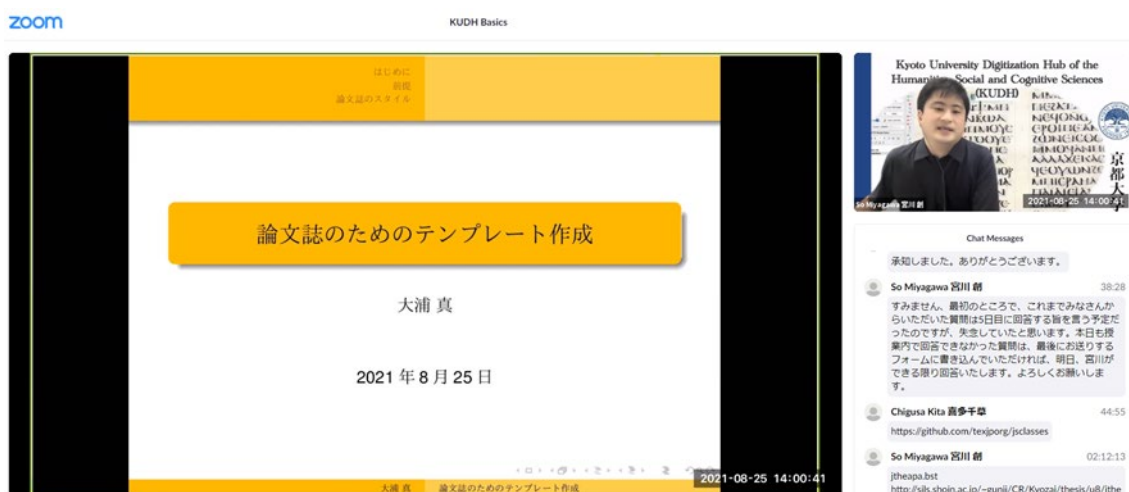


# CESCHI NEWS LETTER

京都大学大学院文学研究科附属 文化遺産学・人文知連携センター ニュースレター

## KUDH Basics: LaTeX ワークショップ



2021年8月22日（日）から26日（木）にかけて、人文知連携拠点の主催により、組版システムLaTeXの使い方を学ぶワークショップをオンラインで開催しました。

人文知連携拠点では、昨年度の京都大学文学研究科・文学部公開シンポジウムにおいて、人文学とコンピューティングとの接合や協働を展望する「デジタル人文学」について議論する場を設けました。研究者の基本的リテラシーとしてとらえうる時期に差し掛かった「デジタル人文学」の課題とそれに向けて求められる教育について考える機会となりました。

そして今夏、初学者でもデジタルツールを実践できるようになることを目的に、「Kyoto University Digitization Hub of the Humanities, Social and Cognitive Sciences (KUDH) Basics」と題して、5日間にわたるワークショップを開催することになりました。今回のワークショップでは、複雑な論文・論文雑誌の作成・組版・編集が手軽に、そして美しくできるLaTeXの使い方について、4名の先生方にお話ししていただきました。今回の全ての授業動画は人文

知連携拠点のWebサイトに公開する予定です。

ワークショップは、喜多千草拠点長からの開会のことばで始まり、第1回は「Cloud LaTeXの使い方」と題して、株式会社アカリクのCloud LaTeXを開発・運営するメンバーの方々に授業をしていただきました。まず、LaTeXとは何かについて、Office Wordとの比較から説明していただきました。LaTeXは導入が無料だったり、レイアウト崩れを気にせず文書を作成できたりと利点がある一方で、手元PCでのインストールが大変でした。それに対して、Cloud LaTeXは環境構築が不要で、Web登録するだけでLaTeXを書き始めることができるサービスです。授業では、手始めにCloud LaTeXに新規登録し、既定のテンプレートから簡単な操作練習をしました。

第2回と第3回はそれぞれ「LaTeX 基礎編」「LaTeX 応用編」と題して、東京外国語大学博士後期課程で日本学術振興会特別研究員の加藤幹治さんにLaTeX記法の具体的な解説や演習を行っていただきました。基礎編では、マークアップ言語を用いるLaTeX特有の改行、インデント、文字の装飾、脚注

などに関する記法について丁寧に説明していただきました。応用編では外部パッケージの導入、図表の挿入、フォントの変更といった論文を執筆する上で必要となる詳細な設定について学習しました。加藤さんによる2日間の実践的授業を通じて、数十ページ程度の標準的なレポート・論文を書くためのテクニックを習得することができました。

第4回は「論文誌のためのテンプレート作成」と題して、京都大学非常勤講師の大浦真さんに授業をしていただきました。これまでの授業が既存のテンプレートを利用して文書を作成する内容であったのに対して、今回はテンプレート自体を独自に作成するという発展的な内容でした。ページレイアウトやタイトル、見出しの細かな設定を定義できる点で、論文誌の編集に役立つものでした。

第5回はフォローアップ・チュートリアルとして、人文知連携拠点の宮川創助教にこれまでの授業で触れられなかった内容を補足的に説明していただきました。特に文献管理ソフトとLaTeXの連携は研究生

活に非常に役立つ内容でした。例えば、本文中に引用キーを指定するだけで論文にその文献データを読み込み、しかも指定の形式で参考文献を自動的に生成してくれるため、論文執筆の効率化につながります。

各日2時間、5日間に及ぶワークショップには、学内外から大学院生やOD、大学教員など、約30名が参加しました。ほとんどの参加者がLaTeXを使ったことのない初学者で、論文執筆や科研費応募書類の作成にLaTeXを使ってみたいという動機を持っていました。そうした受講者の個人的ニーズに対応できるように、今回のワークショップでは、講義内で質問のフォローアップも行いました。今回のワークショップが、参加者にとって、研究生活における効率的な文書作成の一助になれば幸いです。人文知連携拠点では、今後もデジタルツールを用いた研究手法・データ管理について入門的なワークショップを開催していきたいと考えています。

なお、本ワークショップは若手重点戦略に関連する活動です。

## 第85回羽田記念館定例講演会

### 「旧羽田邸に伝来した中国唐宋期の棺形容器について」

2021年6月26日(土)にZoomを使用して、第85回羽田記念館定例講演会を開催しました。今回は、内記理助教が講演「旧羽田邸に伝来した中国唐宋期の棺形容器について」を担当し、羽田邸に伝来した石製の容器の紹介をおこないました。

本容器は羽田記念館の北隣に所在した羽田邸に伝来したものです。2017年11月に文学研究科の井谷鋼造教授(当時)が、同研究科の吉井秀夫教授、下垣仁志准教授、文化財総合研究センター(現在の文化遺産学・人文知連携センター)の内記に資料の存在を伝え、12月には上記の4者で資料の実見をおこないま

した。その際に、容器の四周に線刻による図像が認められることが分かり、学術的な価値の高い資料であることが確認されました。その後、本容器の調査と研究が進められ、制作時期や用途といった、歴史上における資料の位置づけが確認されました。

講演では、調査の経緯、容器の概要、棺形容器の歴史上の位置づけ、類例からみた容器の制作時期と用途、についての説明が順になされました。とくに、容器の概要の説明に際しては、羽田記念館から生中継をおこない、資料の様子を映像で参加者へ公開しました。

本容器はいわゆる「舍利容器」と呼ばれる仏教信仰にかかわるもので、その独特な片流れの形態は中国において採用されたものです。このような形態の石製容器の類例として、これまでに17点が確認されており、いずれも中国で見つかったものです。それらの図像的な要素や構造上の特徴を確認し、それぞれの資料の制作時期を整理することで、羽田邸に伝わった容器の制作時期や用途を検討することができます。検討の結果、羽田邸伝来の石製棺形容器は、10世紀頃、すなわち唐代の末期から北宋代の初期頃にかけて制作されたもので、仏教僧の遺骨を収めるためのものであった可能性が高いことが判明しました。

講演後の質疑応答や、講演会後におこなわれた懇談会では、本容器にかかわる活発な議論がなされました。東アジア全体における棺の形態の動向とのかかわり、敦煌の壁画やそこに収められた晩唐期の高僧の舍利とのつながり、唐代の埋葬方法にかかわる思想、といった多岐に渡る議論が展開されました。学術上の発展性を大いに秘めた資料であることを感じさせます。

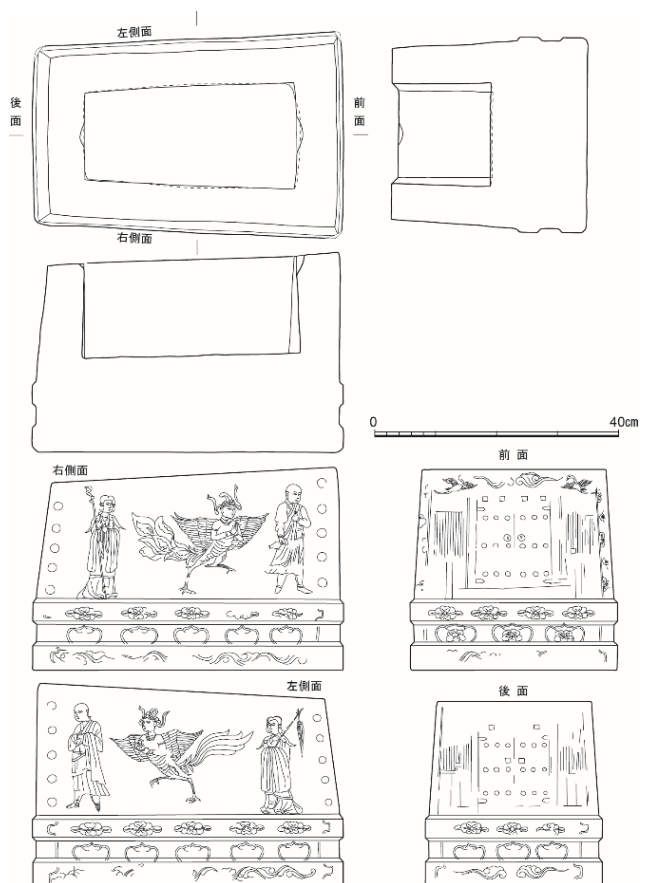
今回の講演の目的の1つは、資料を多くの研究者に知ってもらうことにありました。当日は30名以

上の参加者があり、また学際性に富んだ議論が展開されましたので、その目的は十分に果たせたと思われます。

最後に、今回の発表内容は、『京都大学構内遺跡調査研究年報 2019年度』内に収められた報告文「中国唐宋期の石製棺形容器について－羽田邸に伝来した新例の分析から－」に基づいており、こちらの報告文のPDFは京都大学学術情報リポジトリ(KURENAI)からダウンロードすることが可能です。また、石製棺形容器は2021年3月より、羽田記念館内において説明板とともに展示されております。この学術的に大きな発展性を秘めた貴重な資料の存在を、多くの方々に知ってもらえたら幸いです。



石製棺形容器の展示風景



石製棺形容器の実測図

## センター開催行事日誌(2021年4月～9月)

### ■京都大学構内遺跡紹介映像資料(英語版)の公開 (京大文化遺産調査活用部門)

HP・映像資料コーナーで、「近代の出土文字資料」・  
「考古資料からみた激動の幕末と京大キャンパス」・  
「埴輪の発掘」の英語版を公開しました。

<https://www.ceschi.bun.kyoto-u.ac.jp/arcKU/index-arc.html>

### ■2021年5月6日(木)(人文知連携拠点)

人文知連携共同研究会 第六回東アジア「間文化」  
研究会を開催しました。

<https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/ceschi/seminar20210506/>

### ■2021年6月24日(木)(人文知連携拠点)

人文知連携共同研究会 第七回東アジア「間文化」  
研究会を開催しました。

<https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/ceschi/seminar20210624/>

### ■2021年7月1日(木)～2日(金)

(京大文化遺産調査活用部門)

南丹市に所在する芦生研究林の文化財調査をおこ  
ないました。本調査に関連して、7月20日には滋賀  
県高島市朽木での聞き取り調査に参加しました。

<https://www.ceschi.bun.kyoto-u.ac.jp/arcKU/topix36.html>

### ■2021年7月3日(土)(内陸アジア学推進部門)

第16回近代中央ユーラシア比較法制度史研究会  
を開催しました。

[https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/ceschi/hanedahall/hkk-  
nextmeeting/](https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/ceschi/hanedahall/hkk-nextmeeting/)

### ■2021年7月16日(木)(人文知連携拠点)

人文知連携共同研究会 第八回東アジア「間文化」  
研究会を開催しました。

<https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/ceschi/seminar20210716/>

### ■2021年7月28日(水)～31日(土)

(京大文化遺産調査活用部門)

京大文化遺産調査活用部門のメンバーが進めてい  
る通称「白川道プロジェクト」(科学研究費補助金基  
盤研究(C)19K01094「都市近郊歴史像の再構築－京  
都・白川道の研究を基盤として」代表・千葉豊)の一  
環として、吉田キャンパス本部構内文学部東館中庭  
において発掘調査を実施しました。昨年12月の調査  
で確認された溝状の落ち込みの広がりを追いかけた  
ところ、幅が推定3.6m、深さ約1mのU字状の落ち  
込みとなることを確認しました。他地点での調査成  
果や出土遺物などからみて、この落ち込みは、尾張藩  
邸の東側を限る堀跡であると考えられます。

<https://www.ceschi.bun.kyoto-u.ac.jp/arcKU/topix37.html>

### ■2021年9月2日(木)(人文知連携拠点)

人文知連携共同研究会 第九回東アジア「間文化」  
研究会を開催しました。

<https://www.bun.kyoto-u.ac.jp/ceschi/seminar20210902/>

### ■高等学校での特別講義

滋賀県立膳所高等学校(5月7日)

<https://www.ceschi.bun.kyoto-u.ac.jp/arcKU/topix34.html>

雲雀丘学園高等学校(6月26日)

<https://www.ceschi.bun.kyoto-u.ac.jp/arcKU/topix35.html>

## 京都大学大学院文学研究科附属 文化遺産学・人文知連携センター

〒606-8501 京都市左京区吉田本町京都大学大学院文学研究科

URL: [http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/ceschi/ces-top\\_page/](http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/ceschi/ces-top_page/)

